

古田清市君



群馬本町通り耶馬溪鐵道分岐點に近く、和洋藥品卸商として將た薬局として、第一等の地の利を占め、繁華な千客萬來の中に、夫婦親子相和して顧客に接し、人氣商店の首座に指を屈せられてゐる古田藥店の、大黒柱が我が古田清市君である。

君は市内大新田町古田實業翁の次男で、明治十六年四月五日を以て其邸に生れた人である。翁は既に古稀を超ゆる三年の高齡だが、尚還襟として田園の風月を侶とし、悠々自適されてゐることは日田度い限りである。

そも／＼君が藥店を開業したのは、折しも日露戰役の際で、邦家の非常時に一身を捧げんと、祈禱して萬里の征途に上り、各地に轉戦して偉勳を樹て、凱旋と共に金鵄勳章七級に叙せられたと云ふ。かくて名譽の勇士として歸休した君は、暫らく家郷に在つて父兄を輔佐し家業に努めたが、出征に依つて大陸の空氣に開眼界を大に

近景の事、實に君が三十而立の年であつたと云ふ。之より先君は長崎に遊んで藥店經營の経験を積んだが、幾くもなく歸郷に達して陸軍に召されて陸軍に召され

した君は、大に期する處があつて明治四十五年藥商を創業した譯で、當時は鐵道通りに店舗を構へ業務日に月に繁榮するに至つたが、大正三年歐州大戰の余波を食つて日獨開戦となり、再び召集されて小倉留守師團の守備に任じ、平和克復後除隊となつて依然藥店の經營に精進したもので、折から天井知らずの好景氣に恵まれ、大正十五年現在の本町通りに擴張移轉し、店遷日に月に興隆して今日の巨富をなした譯である。かくて君の名譽は日に揚り、昭和四年中津商工會革新と共に其幹部として交通部理事に推され、更に昨春商工會事務所創設と共に光榮ある初期の商工會議員に選ばれ、今や中津實業界の重鎮として、内は巨萬の富を築き、外は名聲遠くとして地方に喧傳されつゝある。

君の令兄健二君は市内中殿町に精米商を營み、令弟雅子君は日ノ出町に運送店を經營し、末弟敏好君は東沼町に精米商を營み、令姉ツギ子は郷里の名門重祿家に嫁し、令妹米子は市内中町乾物商の棟梁稻積一馬君に嫁し、末妹トワ子は豊田町の乾物商植田俊之助君に嫁し、兄弟七人姉妹を並べて市内實業界に隆盛しつゝあるのは盛なりと謂つべきだ。君の夫人時枝子は同族古田實太郎氏の長女で、琴瑟能く和した圓滿な家庭をなし、二男二女の子嗣者を長男茂生君は今春藤本藥學專門學校を修了して卒業し、古田藥局を開業して父子相携へて中津實業界に活躍し、次男定美君も亦兄に倣つて京都藥學專門學校に盛雪の功を積みつゝあり、長女律子、次女美津子尚幼なるも、皆優秀の名があると云ふ。君の前途は洋々たりと謂つべきだ。

君資性温厚篤く人に接し、平生神佛を崇崇して公共に慈の心厚く、昭和八年奉郷士大新田町の産神濱宮の改築を企て、獨力之を完成して氏子百五十戸を待し、盛なる竣工運慶式を執行し、郷人皆其の徳を頌してゐる。あゝ出で、は邦家の干城として一身、望遠の振興に捧げ、入つては一家を興隆して古田家中興の人となる。君の如き實に中津實業界の模範人物と稱すべきである。

